

東京都議会友好代表団北京市訪問報告書

1 訪問概要

(1) 目的

東京都議会は、北京市との友好都市提携に基づく交流事業の一環として、北京市人民代表大会常務委員会を隔年で訪問・受入をしています。平成23年度は、都議会が訪問する年にあたるため、北京市人民代表大会常務委員会の招請を受け、東京都議会友好代表団を派遣しました。

交流を通じて、東京都と北京市との友好・親善の増進に寄与するとともに、両都市に共通する都市問題等に関して、調査及び意見交換を行い、都議会における政策立案に資することを目的としています。

(2) 訪問都市

北京市（北京市の案内による青島市を含む。）

(3) 訪問期間

平成23年11月10日（木）から14日（月）までの5日間

(4) 代表団名簿

団 長	門 脇 ふ み よ し	都 議 会 議 員	(都議会民主党)
副団長	山 加 朱 美	都 議 会 議 員	(東京都議会自由民主党)
団 員	い の つ め ま さ み	都 議 会 議 員	(都議会民主党)
団 員	大 西 さ と る	都 議 会 議 員	(都議会民主党)
団 員	野 上 ゆ き え	都 議 会 議 員	(都議会民主党)
団 員	田 中 た け し	都 議 会 議 員	(東京都議会自由民主党)
団 員	早 坂 義 弘	都 議 会 議 員	(東京都議会自由民主党)
団 員	中 山 信 行	都 議 会 議 員	(都議会公明党)
団 員	遠 藤 守	都 議 会 議 員	(都議会公明党)
団 員	畔 上 三 和 子	都 議 会 議 員	(日本共産党東京都議会議員団)
随 行	三 橋 昇	議 会 局 長	外 職 員 2 名

(5) 費用 総額 約 3, 259 千円

(6) 日程概要

月日	時間等	予 定
11月 10日 (木)	午前 午後	羽田空港発 北京首都空港着 北京市人民代表大会常務委員会意見交換会及び議場視察 北京市人民代表大会常務委員会表敬訪問 (北京市内泊)
11日 (金)	午前 午後	朝陽循環型経済産業パーク視察 北京市都市計画展示館視察 国家大劇院視察 (北京市内泊)
12日 (土)	午前 午後	故宮博物院視察 北京オリンピック施設視察 北京首都空港発 青島空港着 (青島市内泊)
13日 (日)	午前 午後	青島港港湾施設視察 新旧市街地視察 北京オリンピックヨットセンター視察 (青島市内泊)
14日 (月)	午前 午後	家電メーカーハイアール集団本社視察 青島空港発 成田空港着

2 報告

門脇ふみよし議員を団長として、民主党、自由民主党、公明党、日本共産党の各会派の代表から成る、友好代表団 10 名は、北京市人民代表大会常務委員会の招請を受けて、平成 23 年 11 月 10 日から 14 日までの 5 日間、北京市及び青島市を訪問しました。

(1) 北京市

まず、11 月 10 日から 12 日まで、北京市を訪問しました。

北京市の概要

北京市は省が介在しない国の直轄市である。



《基礎データ》

- ・市 長：郭金龍
- ・人 口：1,961 万人（2010 年）
- ・面 積：16,410.54 km²（東京の約 8 倍）
- ・市街地面積：1,368.32 km²
- ・行政区画：14 区、2 県

北京市人民代表大会

北京市人民代表大会は、地方国家権力機関として憲法に定められており、立法権、予算や経済計画の決定権、人事権（人民政府の長の選出など）、監督権（人民政府、人民裁判所、人民検察庁の監督）などを有する。

人民代表大会の開催は、年に 1 回程度のため、常設機関として、常務委員会が設置され、閉会中の業務にあたっている。

(1) 北京市人民代表大会

代表数：779 名

任 期：5 年

会 議：年に 1 回程度

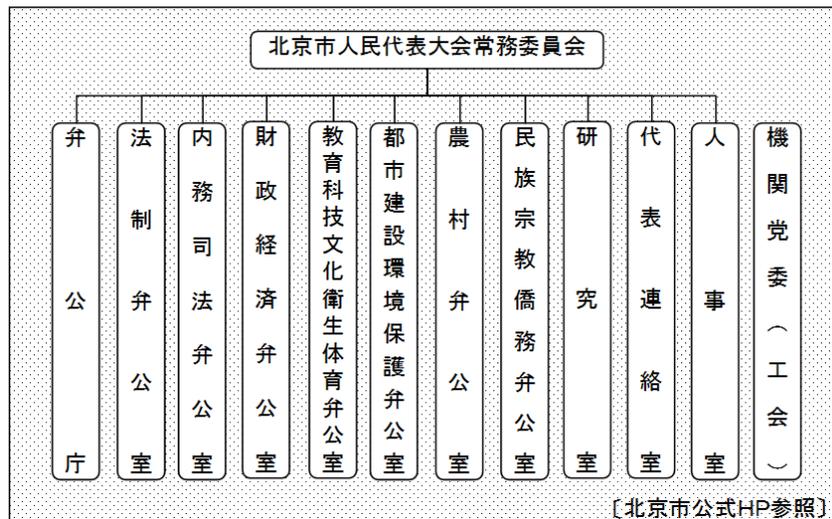
(2) 北京市人民代表大会常務委員会

構 成：主任 1 名、副主任 6 名、秘書長 1 名、委員 66 名

任 期：5 年

会 議：主任が招集、少なくとも 2 か月に 1 回開催

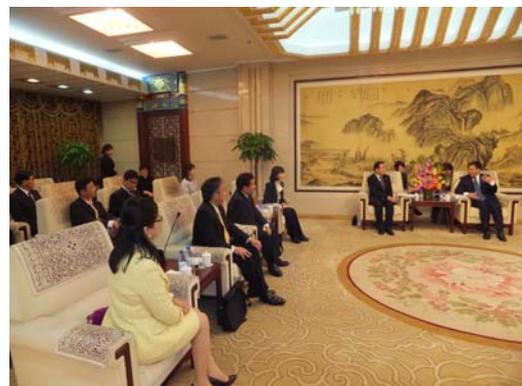
北京市人民代表大会常務委員会機構図



10日午後、北京市人民代表大会常務委員会の杜徳印（ト・トクイン）主任（主任は、日本では議長にあたる。）及び常務委員会関係者を表敬訪問しました。東京都と北京市とは昭和54年（1979年）の友好都市提携以来、東京都議会と北京市人民代表大会常務委員会との交流を始めとして、文化、経済、教育など広範な分野において交流を行ってきており、今後とも東京都と北京市、東京都議会と北京市人民代表大会常務委員会、東京都民と北京市民の交流を深めていくことが重要であることを確認しました。



<北京市人民代表大会常務委員会にて>



<表敬訪問の様子>

杜徳印主任からは、「中国、日本の文化交流は長く、都市の発展にとって互いに経験、ノウハウを学び非常に役立っている。北京市は発展している最中の都市であり、発展の段階において日本、東京の都市管理や都市建設の経験を学んだ。特に、東京でのごみ処理の視察が大型清掃工場の建設に役立っている。さらに深く交流したい」との発言がありました。また、科学技術やカルチャーの発展を通じて北京市全体の経済の発展を図っていくとのこと。なお、杜徳印主任との会談に先立って行った唐龍常務委員会秘書長等との意見交換会でも、北京市がその歴史を踏まえ豊かな文化遺産や資源を活用して、北京市を全国の

文化センターにするために文化政策に力を注いでいる状況の説明がありました。

また、東日本大震災の発生に対する杜徳印主任からのお見舞い状及び中国からの被災地への資金援助や物資支援等について、東京都議会友好代表団を代表して門脇団長からお礼を申し上げました。なお、これら会談の様子は、「北京日報」で報道され、北京市民に紹介されていました。

杜徳印会见日本客人

本报讯 (记者 徐飞鹏) 昨天下午,市人大常委会主任杜徳印会见了以门脇文良为团长的日本东京都议会代表团一行。

杜徳印对客人的来访表示欢迎。他说,东京都与北京市结为友城32年来,开展了广泛的交流与合作。日本遭受地震海啸灾害后,北京市人民对日本灾区人民表达了慰问并提供了资金等援助。这些,都充分表达了两国、两市人民把中日友好关系世代推动下去的美好愿望。“十二五”期间,北京要加快转变经济发展方式,主动调整产业结构,大

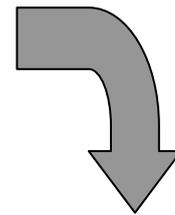
力实施科技创新、文化创新“双轮驱动”发展战略,走资源节约、环境友好型绿色发展道路。希望两市在这方面进一步加强交流与合作。

杜徳印还介绍了中国人民代表大会制度;表示,北京市人大常委会愿意进一步加强与东京都议会的沟通 and 交流,不断加深友谊,推动友好关系深入发展。

门脇文良表示,愿意推动东京都议会与北京市人大常委会、东京都市民与北京市民之间进一步加深交流。

市人大常委会秘书长唐龙会见时在座。

<11/11 北京日報>



(和訳)

杜徳印市人大常委会主任が日本からの客人と会見する

昨日午後、北京市人民代表大会常務委員会杜徳印主任は門脇ふみよし氏を団長とする日本東京都議会代表団の一行と会見した。

杜徳印は客人の来訪を歓迎し、東京都と北京市は友好都市締結 32 年来幅広い分野で交流と協力を続けてきたこと。日本が被った大地震と津波の被害についても北京市民が日本の被災地の人々に励ましと資金援助を行ったこと。これこそ両国民、両都市民が日中友好を末永く推し進めていきたいという美しい気持ちの表れであると話し、「十二五※」期間中、北京は経済発展方式の速やかな転換、産業構造の積極的な調整、科学技術創造に力を入れ文化創造との両輪駆動発展戦略を展開、同時に資源節約環境保護型の発展路線を取るため、両市もこれらの分野で協力と交流を更に進めたいと話した。

杜徳印はまた中国人民代表大会の制度を紹介、北京市人民代表大会常務委員会として東京都議会との更なる疎通と交流を望み、友情を深め友好関係を推し進めたいと話した。

門脇氏は東京都議会も北京市人民代表大会常務委員会との交流、東京都民も北京市民との更なる交流を望んでいると話した。

会見には市人大常委会秘書長の唐龍も同席した。

※ 十二五計画：国民経済と社会発展第 12 次 5 カ年企画要綱(2011-2015 年)

・この計画において、国内総生産平均成長率 7 %等の具体的な発展目標や気候変動・省エネ環境対策など環境問題等への取組などを示している。

翌日 11 日は、まず朝陽循環型経済産業パークを視察しました。ここは、北京市が計画・整備を進めている大規模なごみ処理施設の一つです。2009 年に建設され、244ha の敷地にごみ焼却工場、埋立て処分場、生ごみ処理プラント、医療廃棄物処理工場等が整備されています。北京市では 2008 年までごみは埋立て処分されており、その埋立て処分場の上にこの循環型経済産業パークを建設したということです。これまでは埋立て処分が中心でしたが、埋め立てる場所がなくなっており、北京市のごみ処理の構造を変えたいということです。現在は、埋立て処分の割合が 80%ですが、これからはごみ焼却の割合を 40%にし、埋立て処分の割合を 30%にしたいとのことです。また、北京市の中心区では焼却工場もできないので他区にごみの処理を依頼することになるとのことでした。

「循環型パーク」という言葉のとおり処理場から出る余熱やメタンガスによる発電、滲出水の再利用や生ごみの肥料化に取り組んでいます。また、構内には、刻々と変わるごみ処理に伴う排気ガス等の数値データを電光掲示板に掲出しています。これにより、市民の監視を受け、環境基準を守る姿勢を積極的に示していました。それぞれの施設を視察し、積極的に意見交換を行いました。

ごみ焼却工場では 3 機の炉により 1 日当たり 1,600 t のごみを焼却処理しており、これによりごみの減容化を実現したとのことです。ごみの容積量は 90% 減し、重量は 80% 減になるなど埋立て量を大きく減らすことに成功しています。しかし、北京市では一般ごみの分別収集はまだ行われておらず、例えば資源ごみなどのリサイクルは進んでいないとのことでした。また、埋立て処分している焼却後の残滓についても、将来は、処理して工事の材料等に使用したいとの説明がありました。



<施設の概要説明を受ける代表団一行>

隣接する埋立て処分場では、ごみ焼却後の残滓を埋めています。フィルムシートを被せながら 5 段の高さ（約 18m）に積んでいくとのことで、所々に滲出水を集めるポンプとパイプが配管され、集められた水は微生物化学処理などで浄化され、パーク内で再利用されていました。同様に、メタンガスも収集され、発電に利用していました。これらのリサイクルには今後もっと力を入れたいとのことです。また、飛散等を防ぐフィルムシートを被せながら埋め立てするのは北京市では初めてのこととの説明がありました。



＜滲出水が微生物化学処理等で浄化される様子＞



＜残滓の埋立処分地＞



＜事業説明を受ける代表団一行＞

生ごみ処理プラントはレストラン等からの生ごみを肥料の原料化するものです。生ごみはレストラン等からの発生量も多く、臭い等の問題もあり北京市でも大きな課題となっています。処理は、最初に水分を分離し、微生物化学処理を経て発酵させています。1日当たりの処理予定は400tですが、現在はテスト運転中で100tを処理しているとのことでした。製造した原料をプラントの最後で袋詰めして、加工工場に出荷しています。全国に同様なプラントが8か所あるそうですが、ここが一番大きいとのことでした。

医療廃棄物の処理については、2003年に北京市でのSARS（重症急性呼吸器症候群）の発生があり北京市政府も重視しているとのことでした。感染等の恐れがあるということで処理場の視察はできませんでしたが、北京市内の病院からの医療廃棄物を全てここに輸送して処理しており、1日当たりの処理量は40tとのことでした。

各施設の視察後、北京市のごみ処理施設の建設計画等の説明を受けるとともに、意見交換を行いました。市内の東西南北の4カ所にごみ処理施設を造る予定で、この朝陽循環型経済産業パークと同様に埋立て処分場をパークに変えていくとのことでした。また、昔は、技術・管理の面でも日本や他国に遅れていたが、最近発展してきて機械も近代化され、北京の精華大学、北京大学などと協力して大学院生の研修拠点となっていること、パークは北京市の科学技術普及の拠点にもなっており2009年からは一般市民にも見学を開放していることや地方のモデルセンターとなることが目標であることなどの説明がありました。

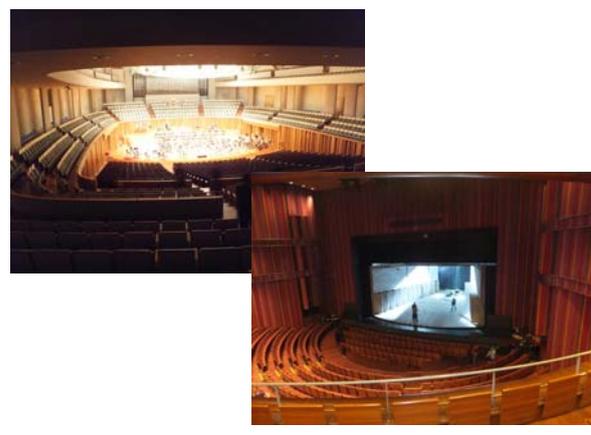
さらに、焼却工場や生ごみ処理プラントに日本のメーカー製造の機械や技術

を導入していることや、また第2焼却工場の建設計画もあり、わが国の廃棄物処理・管理についての先進的な技術力に対する高い期待を強く感じました。

そのほか、北京市の3千年に及ぶ歴史と都市計画に基づく未来像をコンピューターグラフィックの映像と模型により展示する都市計画展示館や中国初の国立劇場である国家大劇院を視察しました。都市計画展示館では、現在の2020年までの計画の達成による都市構造の変化を映像で説明し、北京市の目指す都市像が解りやすく示されています。また、国家大劇院は、歌劇ホール約2,400席、音楽ホール約2,000席、演劇ホール約1,000席を有する大規模コンサートホールです。ここは観劇等で入場するだけでなく、有料により施設の見学をすることができるため、多くの見学者がおり、このドーム型の建物が北京市の新しい観光スポットともなっている様子が伺われました。歌劇ホールの設備や演劇の舞台準備中の状況などを視察しながら、施設の稼働状況や出演者のプロモーションなどについて意見を交わしました。



<都市計画展示館で概要説明及びジオラマによる都市づくりの説明を受ける代表団一行>



<国家大劇院で概要説明を受ける代表団一行>

<国家大劇院の各ホールの様子>

翌日の12日は、故宮博物院と北京オリンピックのメインスタジアムである北京国家体育場を視察しました。

故宮博物院は、その展示物の素晴らしさだけでなく、常に施設のメンテナンスを行いながら見学者等を受け入れるなど、世界的な遺産を観光資源としてうまく活用しており、中国全土及び世界各国からの観光客で賑わっていました。

初日の唐龍秘書長との意見交換において、北京市がその歴史を踏まえ豊かな文化資産等を活用して、北京市を全国の文化センターにするために文化政策に力を注いでいる旨の説明がありましたが、故宮博物院は、まさにその中心的な役割を担う施設であることを実感しました。

また、通称「鳥の巣」と呼ばれる北京オリンピックのメインスタジアムである北京国家体育場も中国全土及び世界各国からの観光客で賑わっていました。ここもオリンピック施設をその開催後に観光資源としてうまく活用している様子が伺えました。

このような北京市の文化・観光政策は、東京都にとっても大変参考になるものと考えます。



<故宮博物院で概要説明を受ける代表団一行>



<北京国家体育場>

(2) 青島市

続いて、11月12日から14日まで青島市を訪問しました。

青島市は、山東半島の南端に位置し黄海に面しています。副省クラスの都市として7つの区と5つの県を直轄しており総面積は10,654 km²、総人口は約872万人です。

青島市の概要

青島市は山東省に位置する副省級市である。



《基礎データ》

- ・市 長：夏耕
- ・人 口：872万人（2010年）
- ・面 積：10,654 km²（東京の約5倍）
- ・市街区面積：1,471 km²
- ・行政区画：7区、5県

青島市人民代表大会

北京市が直轄市であるのに対し、青島市は副省級市であるが、青島市人民代表大会の仕組みや機能等は北京市人民代表大会とほぼ同じである。

(1) 青島市人民代表大会

代表数：560名

任 期：5年

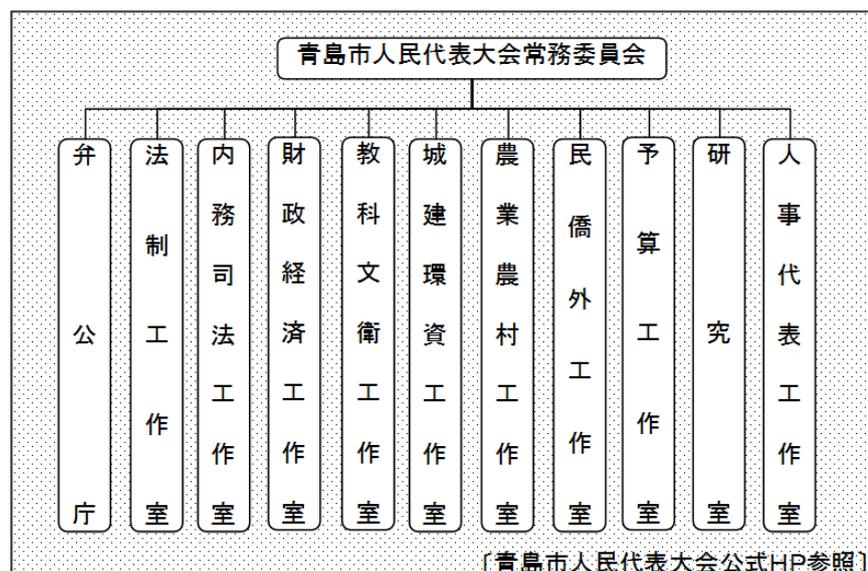
会 議：年に1回程度

(2) 青島市人民代表大会常務委員会

構 成：主任1名、副主任5名、秘書長1名、委員44名

任 期：5年

青島市人民代表大会
常務委員会機構図



中国東部沿岸地域の重要な経済の中心地であり、港湾都市、沿海開放都市※です。交通・運輸の重要な結節点となっており、北京市とは航空路で約1時間、高速旅客鉄道線いわゆる中国新幹線では約6時間で結ばれています。市内では、高速道路網の整備により管轄区域の「1時間経済圏」が実現しています。また、地下鉄や多数の高層住宅などのインフラ整備が進められており、活発な経済活動が伺われます。

※中国の対外開放政策の一つとして、1984年に経済特区に次いで措置された。特区に準じて外貨、技術の導入など対外経済活動の自主権が与えられている。

さらに、膠州湾の東西を結ぶ世界最長 41.58km の海上橋である青島膠州湾大橋や全長 7.8km の膠州湾海底トンネルが 2011 年 6 月末に開通し、市内の移動時間の大幅な短縮が図られています。例えば、海上橋を通ることにより膠州湾を一周する道路では 40 分かかっていたものが 20 分となり、海底トンネルは 15 分で旧市街と港湾地区とを最短距離で結んでいます。

13 日は、まず青島市人民政府の案内により、青島港のコンテナバースを視察しました。青島港には、1.5 万 T E U のコンテナ船が横付けできる世界最大級のコンテナ埠頭だけでなく、30 万 t 級の船舶が着けられる鉱石埠頭、原油埠頭、10 万 t 級の船舶の着けられる石炭埠頭が整備され、世界 130 国・地域の 450 港と取り引きされています。

ここではチンタオ港集団（Q Q C T）から青島港の説明を受けた後、コンテナバースに行き、世界一のスピードでコンテナを積み卸ししている様子を間近で視察しながら担当者と意見を交わしました。



<荷役作業の説明を受ける代表団一行>



<コンテナバースの様子>

チンタオ港集団のこれまでの総投資額は 8.87 億ドルで、コンテナバースとしては 2,400m 級を 7 つ整備し、2010 年のコンテナの取扱量は 1,200 万 T E U で世界の第 8 位に位置づけられています。さらに 2011 年の取扱量は 100 万 T E U 増える見込みであり、取扱い貨物ではアパレル製品、食品、機械部品、化学製品が多いとのこと。中国国内向けでは上海、寧波、深圳が多く、全ての国内港と

つながっていることなどの説明があり、中国の経済発展に支えられた港湾輸送の活発な状況が伺われました。また意見交換では、青島港の優位点や後背地、施設整備の状況、道路渋滞や鉄道による輸送状況などについて意見を交しました。これらは、東京の港湾政策を考える上で参考になると考えます。

次に、海底トンネルを通り旧市街地に戻りました。その途中ではトンネルを整備・管理している國信集団の工程技術部長からトンネル構造や安全設備等について説明を受けました。旧市街地では歴史的建造物を観光資源として活用している青島迎賓館や建築物保護区などを視察し、旧市街地での開発規制や建築物の保存などについて確認しました。旧市街地では特徴的なオレンジ色の屋根瓦の建物や多くの文化名士たちの故居などが保存され観光資源となっています。



<旧市街地の様子>



<オリンピックヨットハーバーの様子>

また、市東部の新市街地では、2008年北京オリンピック・パラリンピックでのヨット競技が行われた青島オリンピックヨットセンターを視察し、新しい市のランドマークとして市民の憩いの場や観光資源となっている状況などを確認しました。ここは北京市以外の唯一の分会場で、もともとは造船所があった場所です。市の中心地区にあった造船工場を港湾地区に移転させて、その工場跡地にヨットハーバー等を整備しています。陸地面積は45haで、施設の設計時からオリンピック後の有効活用を考えていたということです。現在は、オリンピックヨットセンター博物館やヨットクラブ、訓練基地などになっています。また、新市街地でも、屋上がオレンジ色の屋根となっている新しい中高層の建物が多くみられ、これは青島市の景観の統一に大きな役割を果たしています。これらは東京の観光政策を考える上でも参考となるものと考えます。

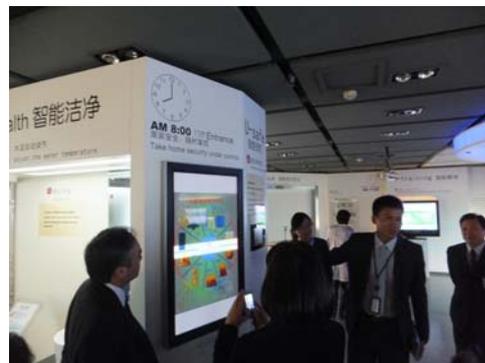
翌14日は、中国最大規模の家電メーカーであるハイアール集団の本社を訪問し、企業発展のためにどのようにその経営を変化させてきたかを伺いました。同社の製品は中国国内の家電の49%を占め、さらに家電輸出ではその80%を占めているとのこと。また、家庭電化製品だけでなく業務用機器やマンション建設などの不動産業にまで進出し、2010年現在で従業員約7万人、営業収入1,357億元、利益62億元の国際企業に成長しています。

しかし、1984年に冷蔵庫を製造するグループを創業したときは、従業員600

人、147 万元の赤字企業だったとのこと。何が企業を変えたのか、説明によると、常に試行錯誤を繰り返すとともに、顧客サービスを重視し、ビジネスチャンスを取り戻すという企業文化が重要な役割を果たしたとのことでした。商品については、売って終わりではなく、そこを始まりと捉え様々な顧客サービスを提供し、その優位性で市場競争を勝ち抜いた。また、インターネットの普及が新しい企業にチャンスをもたらしたとのこと。インターネット時代はユーザーの個性化が目立ち、取引の主導権も企業からユーザーに移った。いかにしてバラエティに富んだユーザーのニーズに応えるかが企業の直面している課題の一つであるとのことでした。同社の手がけた製品の進化過程について説明を受け、中国の経済発展の原動力を実感しました。また、経営形態や消費者本位のニーズの尊重と細かい顧客対応などについて意見を交わしました。



<ハイアール本社の外観>



<製品コンセプト等の説明の様子>



<事業概要の説明を受ける代表団一行>

3 結び

今回は、急速な発展が著しい北京市と国際港湾都市である青島市を訪問し、その変化と現代化への取組みを理解する有意義な機会となりました。この視察や意見交換は、今後の東京都政を考えていく上でも大変参考になるものと考えます。

このたびの訪問にあたり、お世話いただきました北京市及び青島市の皆様に改めて心より厚くお礼を申し上げ、東京都議会友好代表団の報告とさせていただきます。